



全国曹洞宗青年会の 活動紹介(五十六)

災害復興支援活動全国研修会 紹介

五十周年記念事業実行委員長 森井 宗淳もりい そうじゆん

全国曹洞宗青年会創立五〇周年を迎える今期、この歴史に想いを向けると、多くの先輩方が当時の世情に対して多様な活動を行なってこられたことを感じます。その中でも、青年会ならではのフットワークとスピード感を持って臨んできたといえるのが災害復興支援ではないかと思えます。

振り返ってみると数多くの災害が発生しました。そこには、炊き出し、土砂掻き出し、行茶、募金活動など多様に、そして無我夢中で活動された先輩方がおられました。私が小学生の時、阪神大震災が起きました。テレビに映る悲惨な状況を目の当たりにしながらも、



どこか人ごとのような印象でした。そして、大人になり現地支援に行く機会も増えた中で一番印象深いのが、横浜での納所中に発生した

東日本大震災です。

位牌や石塔が多く倒れ、停電になり、帰宅困難者が街に溢れかえっておりました。復旧したテレビから映し出される東北の状況は、夢のように信じられませんでした。その後、先輩の誘いで向かった岩手県釜石市で見た被害の様子には、声が出ませんでした。

あれから一三年を経た今、私にどれだけの支援活動ができたのかはわかりません。しかしあの時現地に行ったからこそ、助けを求める人の声が心に刺さり、想像から実感になったことで、支援活動に対する決意が起こったのだと感じます。

何かをしたいけれど、何をしたいかわからない時に、「現地に行こう」と連れ出していただいた先輩に心から感謝しております。

この五〇周年記念事業では、全国九管区を会場に「災害復興支援活動全国研修会」を行っております。青年会は会員が入れ替わります。また、コロナ禍で支援活動が思うようにできなかった期間を経



た今、この研修会を全国で行う意義は深いものだと思います。

研修会では、災害が起きた際に必要とされる炊き出し研修、さらには復興支援に必要な知識を講義いただきます。講師にはNPO法人BOND&JUSTICEの大玉雅宏氏、NPO法人レスキューアシストの中島武志氏を迎え、それぞれ専門とする分野のお話と、現地で活動を継続しているからその想いを語っていただきます。

すでに開催した東海、九州、関東管区の参加者からは、「有意義な研修会で本当にありがたかった」「地元青年会で発展させた研修をしようと思う」といった声を数多くいただきました。

一月に発生した能登半島地震。全国から青年僧侶が支援活動を行っています。発災直後から現地に入り支援を続けられる講師の先生はおっしゃいました。「今こそ生の声を全国にお届けして、一人でも多くの方と力を合わせた」と。



● 執筆者プロフィール
森井宗淳

五十年記念事業実行委員長
いずも曹洞宗青年会所属